

トラック輸送情報（平成16年2月分）

平成16年 5月10日
国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課
担当：高橋、荒木 内線28315
直通：03-5253-8342
ホームページ <http://www.mlit.go.jp>

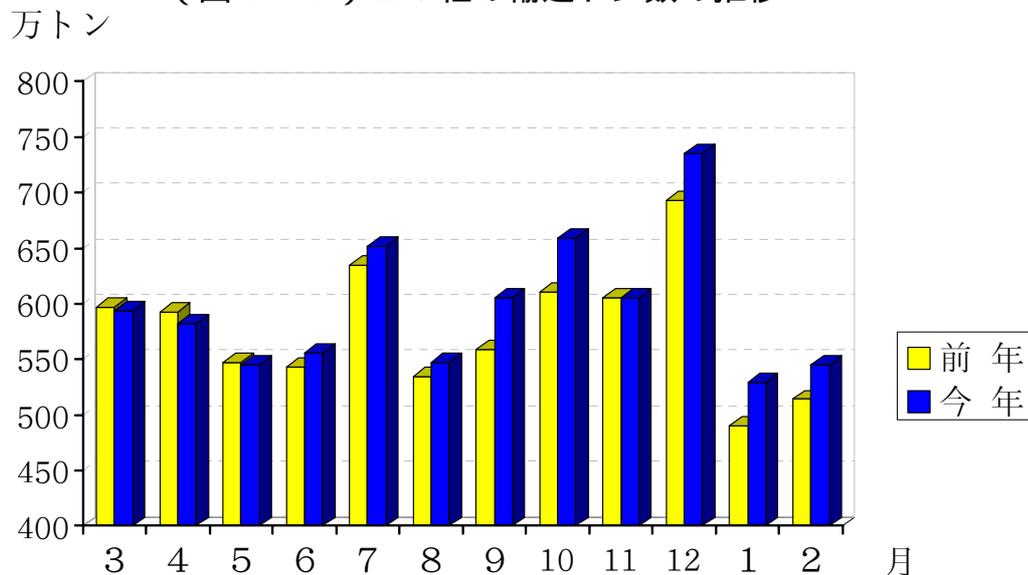
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

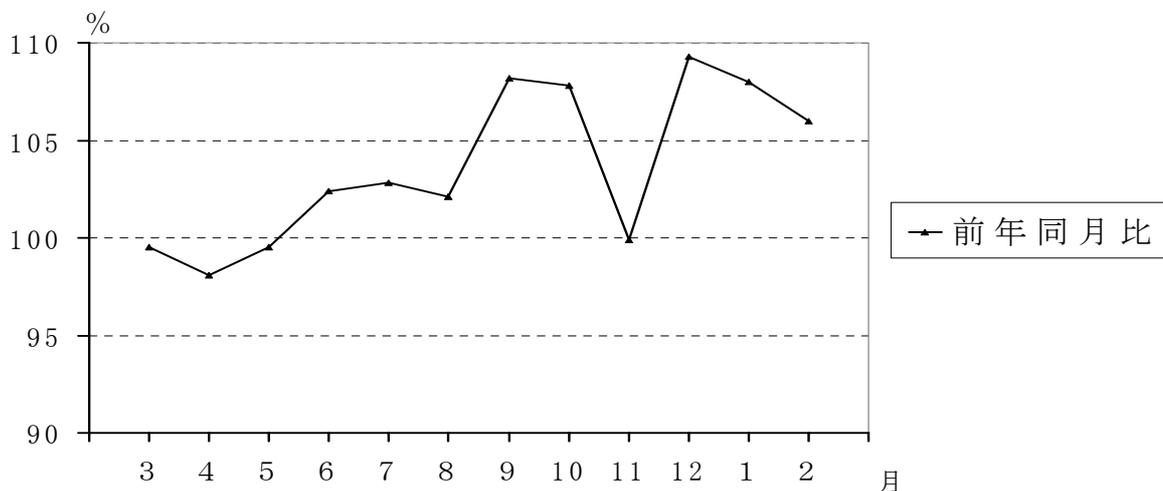
調査対象26社の本月の輸送量は、5,447,102トンで、前月と比べ、総輸送量が約15万トン増加したため、前月比102.9%（季節調整済み95.0%）、前年同月と比べると、約31万トン増加したため、前年同月比106.0%の実績であった。（注：1月の輸送量は、5,293,906トンに修正となりました。）

なお、平均稼働日数は、22.5日で、前月と比べ、0.4日の増加、前年同月と比べると、0.3日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、242,093トンで、前月と比べ、約3千トン増加したため、前月比101.1%、前年同月と比べると、約2万トン増加したため、前年同月比107.4%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

(図1-1) 26社の輸送トン数の推移



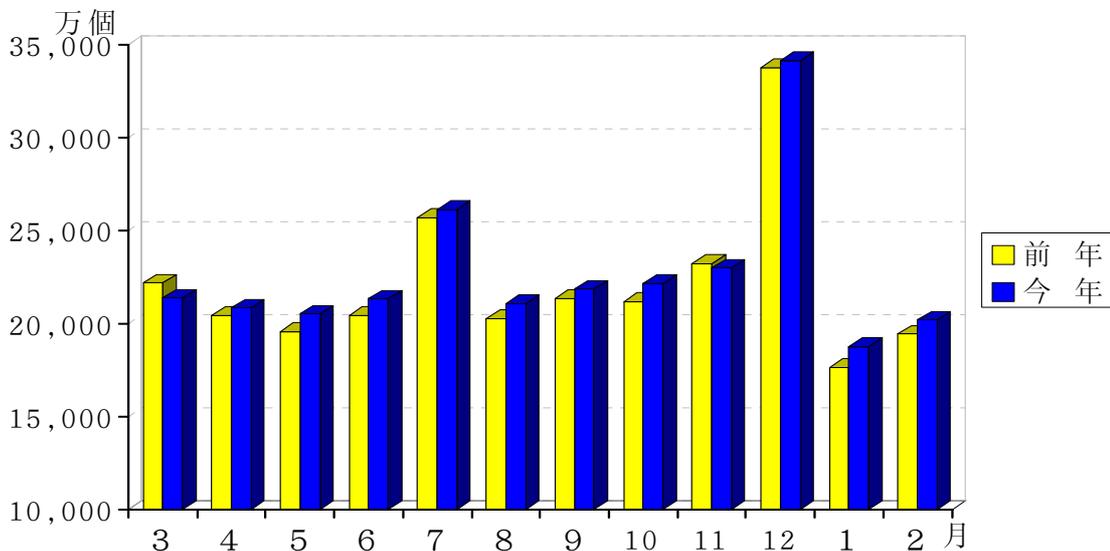
(図1-2) 26社の輸送トン数の前年同月比



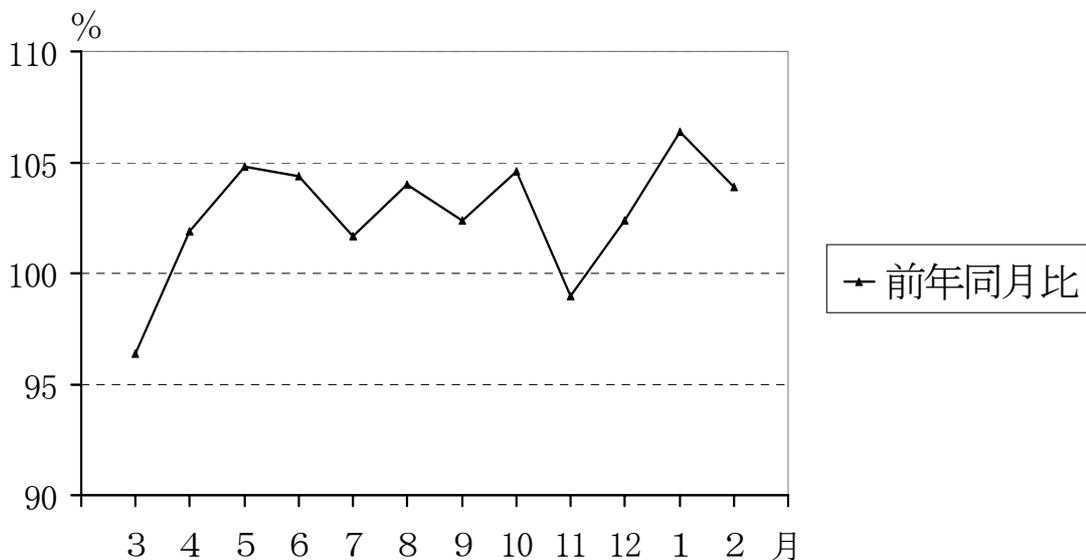
(2) 宅配便の概況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、201,946千個で、前月と比べ、約 1,427万個増加したため、前月比 107.6% (季節調整済み 97.8%)、前年同月と比べると、約 759万個増加したため、前年同月比 103.9%の実績であった。(図2 - 1、図2 - 2 参照)

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1 参照)

前月と比べると、年度末決算期並びに春期における需要増を迎えていることから、増加傾向を示す品目が多くみられた。農水産品は中国、九州において、繊維工業品は関東、中部を中心に工場・生産地からの貨物減を理由に減少しているが、それ以外の食料工業品や日用品をはじめとした品目において、工場・生産地あるいは問屋・倉庫等からの貨物増や季節的な需要増を主な理由として関東、中部、近畿を中心に増加している。

前年同月と比べると、ほとんどの品目で関東を中心に工場・生産地からの貨物減を主な理由に減少しているものが目立つものの、機械、繊維工業品、日用品等においては関東、近畿を中心として、工場・生産地からの貨物増に加え、景気の回復を理由とした増加が見られたため、全体の輸送トン数が増加している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	増	変らず	減	著減					
前月に比べて	農水産品	1	1	12	2	1	野菜	東北、北陸信越	4, 6	
								野菜、青果物、水産品	中国、九州	4
	金属製品		5	14	1			金属製品	関東、近畿	4, 8
									北陸信越	4
	機械		4	15	2			機械部品	中国、関東、近畿	4, 8
								電気製品、機械部品	関東	
	化学工業品		5	15	2			塗料、合成樹脂	関東、近畿、中国	4,7,8
									関東	4
	繊維工業品		1	17	3	1				
								織物、繊維	関東、中部、近畿	4, 8
	食料工業品		10	10	1			飲料、加工食品	関東、近畿	4,5,7,8
日用品		11	8	2			文具、身廻品、書籍、衣服	東京、神奈川、大阪	4,5,7,8	
							書籍、カタログ	東北、関東	8	
その他		5	11	4			宅配貨物	全国、関東、近畿	4, 8	
							百貨店配送品	関東	2, 8	
前年同月に比べて	農水産品	1	2	12	2		野菜、水産物	東北、関東、九州	4, 9	
								穀類	北海道	4
	金属製品	1	1	12	5	1		建築用金属製品、金属製品		4, 9
								建築用金属製品、工具	北陸信越	4
	機械	2	1	13	5			機械部品	関東、近畿、中国	4, 9
								電気機械、機械部品	関東、北陸信越	4,5,6
	化学工業品	1	1	15	5					
								合成樹脂、その他の化学工業品	関東、北陸信越、近畿、中国	4
	繊維工業品	2	3	12	5			繊維	関東、中部、近畿	4, 9
								糸、繊維、織物	中国	4, 9
	食料工業品	1	3	13	4			飲料、加工食品	関東	2,4,5,7,9
								加工食品	関東	4,5,9
日用品	2	2	11	6			身廻品、その他の日用品	関東、近畿	4,5,7,9	
							衣服、身廻品、文具、カタログ	北海道、関東、大阪	4,5,7,9	
その他	1	5	10	4			宅配貨物、百貨店配送品	神奈川、大阪、全国	4, 9	
							宅配貨物、百貨店配送品	関東		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 859社 / 調査対象事業者数 1,070社）の輸送量は、前年同月比 100.4%、前月比 103.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.4%	101.0%	96.9%	100.6%	102.4%	101.3%	103.6%	99.4%	100.4%	98.9%	108.2%
前 月 比	103.3%	101.4%	102.5%	103.6%	107.9%	104.3%	110.3%	104.3%	100.1%	102.0%	100.8%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>中・北部においては冬期による工事の減少に伴う関連品目の輸送は引き続き低かったが、南部においては建設工事が増加したため、この地域での輸送増はみられた。また、先月に引き続き大雪の影響により「廃棄物（排雪）」の輸送需要が増加した。このため、対前月比は101.4%となった。また、対前年同月比も101.0%であった。今後の輸送見通しについては、建設工事が徐々に開始されることも見込まれており、次月及び以降共に上昇傾向にある。</p>
東北	<p>正月休みがあった前月に比べ稼働日数が増加したため、対前月比は上向きとなった。公共工事等の増加による「砂利・砂・石材」「セメント」等の増加、倉庫間の移動のため「穀物」等の増加が見られたという報告もあった。このため、対前月比は102.5%となったが、対前年同月比は 96.9%であった。今後の輸送見通しについては次月及び以降ともほぼ横ばい傾向にある。</p>
関東	<p>休日・祝日が多かった前月と比べ、稼働日数が増加したこともありやや増加した。輸送品目については、春の行楽シーズンに向けての「日用品」や年度末の需要増により製造関係品の輸送が増加した。このため対前月比は103.6%と増加した。対前年同月比は100.6%とほぼ横ばいであった。今後の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>例年に比べ寒さが厳しくなかったため、灯油等の「その他の石油製品」の減少が目立っている。また、年度末に向け、公共工事が増加傾向にあることから、「砂利」「セメント」等の建設・土木工事関係に必要な品目が増えている。このため対前月比107.9%、また、対前年同月比も102.4%とともに増加した。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は横ばい傾向にある。</p>
中部	<p>マグロ等の水揚げや肉類の需要低下の影響で「水産品」が、節句に向けての「日用品（雑具等）」の輸送増がみられた一方、「その他の化学工業品」が輸出入の影響で減少した。このため閑散期でありながらも対前月比104.3%増加となった。対前年同月比についても101.3%と、微増にとどまった。今後の見通しについて、次月及び以降ともわずかではあるが減少傾向にある。</p>
近畿	<p>大きく落ち込んだ前月に比べると持ち直している。「日用品」「紙・パルプ」は新学期を控えて事務用品や教科書等の需要が高まったためと考えられる。また、「機械」「金属製品」が季節的な需要があったこと、1月に比べて稼働日数も増加したこともあり、対前月比で110.3%、対前年同月比で103.6%となった。今後の輸送見通しは次月が増加、それ以降はほぼ横ばいと予想される。</p>
中国	<p>山陰地方において、積雪の影響で輸送量が減少した事業者もいるが、年度末が近づいていることもあり、建築土木関係品目の輸送量は増加傾向で、全体的に輸送量は増加した。このため、対前月比は104.3%となった。また、対前年同月比は99.4%であることから、今月の増加は季節的要因によるものであると思われる。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向にある。</p>
四国	<p>季節的需要減等により「穀物」「化学薬品」の輸送が減少しているが、建設工事等の増加や農繁期等の需要増により「セメント」「化学肥料」が増加したため、対前月比100.1%、対前年同月比100.4%とほぼ横ばいとなった。今後の輸送の見通しについては各県ではばらつきがあるが、全体としてやや増加傾向にある。</p>
九州	<p>公共工事等の件数増加による「砂利・砂・石材」「機械」等の関連品目や、出荷時期が始まったことによる「野菜・果物」の輸送量の増加が目立ったことから、対前月比は102.0%と増加したが、2月が温暖だったことにより「その他の石油製品」が、また、鳥インフルエンザの影響により「畜産品」の需要が減少したこともあり対前年同月比98.9%となった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加の傾向にある。</p>
沖縄	<p>1月に減少していた「水産品（マグロ）」の輸送回復がみられ、彼岸に向けて「その他の農産品（切り花）」の輸送需要増加がみられた。また、引越しが始まったことによる「取り合わせ品」の輸送増があったことから、対前月比では100.8%、対前年同月比では108.2%となった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向にある。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀物	増	2	4	0	0	0	0	0	0	1	0	7
	減	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	4
2. 野菜・果物	増	0	0	1	1	0	1	0	1	5	0	9
	減	1	1	1	0	1	1	0	0	2	0	7
3. その他の農産品	増	2	0	1	0	0	0	0	0	1	2	6
	減	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	1	0	0	0	0	0	1	2	4	0	8
5. 水産品	増	0	1	0	0	2	0	0	1	0	1	5
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6. 木材	増	1	1	0	2	0	0	1	1	1	0	7
	減	4	0	1	2	0	0	0	0	1	0	8
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	減	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
10. 砂利・砂・石材	増	4	4	0	3	0	1	3	0	8	0	23
	減	5	2	0	0	0	0	1	1	2	0	11
11. 工業用非金属鉱物	増	1	2	0	0	1	0	2	0	2	0	8
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
12. 鉄鋼	増	1	2	0	1	1	1	3	0	0	0	9
	減	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3
13. 非鉄金属	増	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	5
	減	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3
14. 金属製品	増	1	0	1	1	0	2	0	0	2	0	7
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
15. 機械	増	0	0	3	1	2	3	1	1	12	1	24
	減	0	0	1	2	1	0	1	0	1	0	6
16. セメント	増	2	3	0	2	0	1	0	2	3	0	13
	減	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
17. その他の窯業品	増	0	2	0	3	0	0	0	0	1	0	6
	減	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18.揮発油	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	4
19.その他の石油製品	増	0	2	2	0	1	0	0	0	0	0	5
	減	1	1	1	4	0	1	1	0	3	0	12
20.コークス・ その他の石炭製品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
21.化学薬品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	減	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
22.化学肥料	増	0	1	1	0	0	0	3	2	0	0	7
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23.その他の化学工業品	増	0	0	0	2	0	1	2	0	1	0	6
	減	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	4
24.紙・パルプ	増	0	1	0	0	0	3	0	1	0	0	5
	減	2	0	0	0	1	0	0	0	1	1	5
25.繊維工業品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
26.食料工業品	増	2	4	0	1	0	1	0	1	8	1	18
	減	2	1	1	1	0	0	0	0	5	0	10
27.日用品	増	1	2	2	0	2	4	1	1	5	0	18
	減	2	0	2	0	1	0	1	0	2	0	8
28.その他の製造工業品	増	0	0	1	0	0	2	0	0	2	0	5
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3
29.金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
30.その他のくずもの	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
31.動植物性飼・肥料	増	1	1	1	0	0	0	1	0	1	0	5
	減	1	0	2	1	0	0	0	1	1	0	6
32.廃棄物	増	11	1	1	1	0	0	1	0	2	0	17
	減	5	0	0	0	0	0	0	1	1	0	7
33.輸送用容器	増	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34.取り合せ品	増	0	0	0	1	0	1	0	1	1	3	7
	減	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
35.その他	増	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4
	減	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3